

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
森ノ宮医療学園 専門学校	昭和48年3月1日	安雲 和四郎	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4丁目1-8 (電話) 06-6976-6889			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 森ノ宮医療学園	昭和52年4月1日	清 水 尚 道	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4丁目1-8 (電話) 06-6976-6889			
目 的	森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科は、柔道整復師に必要な理論並びに技術の専門教育を行い、かつ医療人としての人格・教養をたかめ、もって社会の福祉と国民の健康の保持と増進に寄与することを目的としています。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	柔道整復学科 (昼間部)	3年(昼)	94単位	平成十五年文部科学省 告示第十四号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	68単位	5単位	0単位	3単位	18単位	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
270人の内数	155人	15人	22人	37人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 試験等を総合的に評価し、絶対評価にて100点満点中60点以上を合格とします。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■春 季：4月1日～4月7日 ■夏 季：8月1日～8月25日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：3月18日～3月31日 ■学 年 末：3月31日			卒業・ 進級条件	卒業条件は、定められた全ての単位を修得し、卒業試験に合格のうえ、授業料等、定められた学納金を完納していることと定めています。進級条件は、原則、当該学年の教育課程における全ての単位を修得することと定めています。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任と当該学生とによる面談を積極的に行っています。場合によっては、学生同意の上で保護者あるいは事務職員を交えることもあります。			課外活動	■課外活動の種類 柔道整復師関連学会にて研究発表を行ったり、文化祭当日に学校近隣の清掃活動等を行ったりしています。 ■サークル活動 (有・無)	

<b>主な就職先</b>	<b>■主な就職先、業界等</b> 病院、クリニック、整骨院 <b>■就職率※<sup>1</sup> 97 %</b> <b>■卒業者に占める就職者の割合※<sup>2</sup></b> 83 % (平成25年度卒業者に関する平成26年3月時点の情報)	<b>主な資格・検定</b>	柔道整復師国家資格
<b>中途退学の現状</b>	<b>■中途退学者 14名 ■中退率 7.6%</b> 平成25年4月1日在学者 185名 (平成25年4月入学者を含む) 平成26年3月31日在学者 171名 (平成26年3月卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更、学業不振 <b>■中退防止のための取組</b> 担任による積極的な面談に加えて、学業不振者に対して課外ゼミや個別指導等を随時行っています。兼任教員も参加している職員会議において、学生に関する情報を共有し、長期欠席者等への早期対応を図っています。		
<b>ホームページ</b>	URL : <a href="http://www.morinomiya.ac.jp/">http://www.morinomiya.ac.jp/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

柔道整復師養成施設においては、柔道整復師学校養成施設指定規則等により、教員としての条件が他の専門課程より厳しく設定されていますが、本校は開校以来、医療現場で活躍する臨床経験豊富な医療人による授業の必要性について強く認識しており、教員条件を有する臨床家に、兼任教員として、特に実際の医療現場で求められている技能・知識あるいは様々な症例・患者への対応等を踏まえた学生への実践的な教育をお願いしています。学期ごとに開催している職員会議には専任教員だけでなく、兼任教員にも出席していただき、授業内容や学生の状況等のご意見をいただいたうえで、学内で本校の教育方針との合致等の検討を行い、カリキュラムや学生指導に反映させています。以上のようなこれまでの状況に加えて、教育課程編成委員会の設置により、一層外部医療資格者との連携が行いやすくなったと考えています。今後も引き続き、多くの臨床家と連携を行い、実際の医療の現場が求める知識・技術・技能を把握した上で、より実践的な教育課程の編成ならびに教育内容の充実を目指していきたいと考えています。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年6月1日現在

名 前	所 属
川口 靖夫	公益社団法人大阪府柔道整復師会
根来 信也	根来接骨院
西村 信一	西村接骨針灸院
相江 大樹	葉山整骨院
安雲 和四郎	森ノ宮医療学園専門学校
森 優也	森ノ宮医療学園専門学校
葉山 直史	森ノ宮医療学園専門学校
山本 達也	森ノ宮医療学園専門学校
初瀬川 初雄	森ノ宮医療学園専門学校

### (開催日時)

第1回 平成26年8月8日(予定)

第2回 平成27年2月12日(予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

前述の通り、本校は開校以来、医療現場で活躍する臨床経験豊富な医療人による授業の必要性について強く認識しており、柔道整復師学校養成施設指定規則等に定められた教員条件を有する臨床家に、兼任教員として学生の指導をお願いしています。柔道整復師の養成については、卒業後に実際の医療現場で活躍できる人材を輩出することが重要であるため、これらの兼任教員には特に現場で求められる知識・技術の習得を目的として、実技・実習科目を担当していただいています。専任教員は基礎知識・基礎技術の教授、ならびに学生サポートに注力し、兼任教員に応用力を高める授業を依頼することで、医療現場のもつめる人材育成が可能となっており、その結果、多くの病院、整骨院、クリニックからの多くの求人件数に結びついています。

科目名	科目概要	連携企業等
柔道整復学実技Ⅰ (2年次配当)	臨床で比較的高頻度に見られる骨折、脱臼について、それぞれの整復法および固定について実践的に学ぶ。	関目病院
基礎柔道整復実技 (1年次配当)	柔道整復師に必要な基礎の固定法を修得し、臨床現場で軟部組織損傷の治療に際し行う包帯固定時の技術力を身につける。	たなべ鍼灸接骨院
柔道整復学実技Ⅰ (3年次配当)	臨床で高頻度に見られる骨折、脱臼について、整復、固定を行う際に、自らリスク管理を行い、患者への対応、助手への指示が適切にできる能力を身につける。	整形外科ひろクリニック
柔道整復学各論Ⅱ (2年次配当)	下肢の骨折について、それぞれの骨折の概念、特徴、基本的な鑑別法を学び、加えて後療にあたるための知識を得る。	西村接骨針灸院

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

森ノ宮医療学園研修規程に基づき、計画的に教員を企業等と連携した研修に参加させています。同規程の定め通り、法人本部経営管理室が、所属長と協議の上、各教員の専攻分野はもちろん、教員として必要なその他の分野の知識を考慮し研修計画を定めています。本校では教員が二以上の専攻分野に精通することを目標としていることから、研修計画もそのような方針に沿って策定されています。研修計画は法人本部長の承認を得た後、所属長を通じて該当教員に通知され、実際の研修への参加という流れになっています。研修後は経営管理室により研修結果の精査が行われ、次年度以降のより有効な研修の実施に向けた検証が行われます。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年6月1日現在

名前	所属
安雲 和四郎	森ノ宮医療学園専門学校
伊藤 久夫	大阪府鍼灸マッサージ師会
川口 靖夫	大阪府柔道整復師会
赤丸 敏行	
浜田 暁	森ノ宮医療学園校友会
上條 藤夫	
森 優也	森ノ宮医療学園専門学校
葉山 直史	森ノ宮医療学園専門学校

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.morinomiya.ac.jp/schoolguide/information.html#ContentWrapper>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL:<http://www.morinomiya.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復学科(昼間部) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			心理学	医療の基礎となる心のはたらきと患者心理について理解する。	1前	30	2	○		
○			臨床心理学	前期の総論を基礎とし、人生プロセスを理解した上で、人生の各時期における代表的なストレス症状の原因から治療を知る。	1後	30	2	○		
○			社会学Ⅰ	国の社会保障制度、医療保険制度を学び、加えて療養費払い制度を学び、柔道整復師の社会的立場と求められる役割を理解する。	1前	30	2	○		
○			生物学 (1年次担当)	医療従事者として生体を理解するために、身体の構成成分である生体分子および細胞が営む生命現象について学ぶ。	1後	30	2	○		
○			生物学 (2年次担当)	医療従事者として生体を理解するために、身体の構成成分である生体分子および細胞が営む生命現象について学ぶ。	2前	30	2	○		
○			英語Ⅰ	医療従事者に必要なコミュニケーション能力と、最低限必要な医学英語を身につける。	1前	30	2	○		
○			英語Ⅱ	医療従事者に必要な医学英語の知識を身につける。とくに人体各部の名称や、筋、骨、関節、神経系の英単語が理解できる。	1後	30	2	○		
○			解剖学Ⅰ	柔道整復師にとくに必要な解剖学(運動系)の基礎知識を習得して、身体のメカニズムを理解するとともに、施術の論理的理解を深める。	1通	84	3	○		
○			解剖学Ⅱ (1年次担当)	人体を構成する器官の中でも、血管や内臓の構造・形態と機能を学び、加えて臨床との関係についても学習する。	1後	56	2	○		
○			解剖学Ⅱ (2年次担当)	人体を構成する器官の中でも、内臓の構造・形態と機能を学び、加えて臨床との関係についても学習する。	2前	28	1	○		
○			生理学Ⅰ	健康や病気を理解する上で必要な、ヒトの身体がどのような営みを行い、生命を維持しているのかを学ぶ。	1後	56	2	○		
○			生理学Ⅱ (1年次担当)	健康や病気を理解する上で必要な、ヒトの身体の営み(機能)を学ぶ。とりわけ柔道整復師に必要な神経、筋肉の基本的機能、神経系の機能等は詳しく学ぶ。	1後	28	1	○		

(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			生理学Ⅱ (2年次配当)	健康や病気を理解する上で必要な、ヒトの身体の営み(機能)を学ぶ。とりわけ柔道整復師に必要な神経、筋肉の基本的機能、神経系の機能等は詳しく学ぶ。	2 前	56	2	○		
○			運動学	人体の骨格、筋、内臓などの身体の形態的特性や筋力的特性を理解し、その力学的な相互関係によって起こる姿勢や動作などの身体運動について学ぶ。	2 通	56	2	○		
○			病理学概論	細胞、組織、臓器などの形態の変化を観察することで、疾病の原因、経過、本態、ほかの疾病との鑑別、治療効果などについて詳しく学ぶ。	2 通	52	2	○		
○			外科学概論	現代医学の根幹をなす外科学の基本的知識を学ぶとともに、それを通じて医療現場で求められる優先順位をつける力や鑑別の重要性を理解する。	3 通	52	2	○		
○			整形外科学 (2年次配当)	運動器の治療を行う柔道整復師にとって必要な「運動器全般の知識」すなわち整形外科全般について学ぶ。	2 後	26	1	○		
○			整形外科学 (3年次配当)	運動器の治療を行う柔道整復師にとって必要な「運動器全般の知識」すなわち整形外科全般について学ぶ。	3 前	52	2	○		
○			衛生学・公衆衛生学	疾病の治療・予防に衛生面からアプローチして健康を維持・増進させるために必要な、食事や労働など、ヒトを取り巻く環境について学ぶ。	1 通	78	3	○		
○			一般臨床医学	解剖学、生理学、病理学の知識をふまえ、疾患に対する知識と理解を深め、症状と所見から鑑別診断ができる能力を身につける。	3 通	78	3	○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションとは何かを学び、基本的な評価や訓練内容を説明、実践できるよう学習する。また理学療法に加え、作業療法、言語療法の内容を理解する。	3 通	52	2	○		
○			医学史	柔道整復師が医療人として知っておくべき現代医学の歴史的背景を把握した上で、固有の医療である柔道整復術の歴史的展開について理解する。	1 前	26	1	○		

（医療専門課程 柔道整復学科（昼間部））平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			関係法規	法の基本的概念とともに、柔道整復師に必要な法律知識を習得し、法的なものの考え方を身につけ、柔道整復師法を理解し、説明できる能力を身につける。	3前	40	2	○		
○			柔道 (1年次担当)	礼を重んじる柔道の習得を通して医療人としての人格を養うとともに、正しい柔道の技術を身につける過程で心身を鍛練し、健康な心身を維持することに努める。	1後	45	1			○
○			柔道 (2年次担当)	礼を重んじる柔道の習得を通して医療人としての人格を養うとともに、正しい柔道の技術を身につける過程で心身を鍛練し、健康な心身を維持することに努める。	2通	90	2			○
○			柔道 (3年次担当)	礼を重んじる柔道の習得を通して医療人としての人格を養うとともに、正しい柔道の技術を身につける過程で心身を鍛練し、健康な心身を維持することに努める。	3前	45	1			○
○			柔道整復学 総論Ⅰ (1年次担当)	柔道整復師の専門分野である柔道整復学のうち、骨損傷総論について学習し、骨折治療にあたるための基礎知識を身につける。	1前	52	2	○		
○			柔道整復学 総論Ⅰ (3年次担当)	柔道整復師の専門分野である柔道整復学のうち、骨損傷総論について学習し、骨折治療にあたるための基礎知識を身につける。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学 総論Ⅱ (1年次担当)	柔道整復師の専門分野である柔道整復学のうち、脱臼・捻挫などの関節損傷ならびに筋損傷などの組織損傷について基礎知識を学ぶ。	1通	78	3	○		
○			柔道整復学 総論Ⅱ (3年次担当)	柔道整復師の専門分野である柔道整復学のうち、脱臼・捻挫などの関節損傷ならびに筋損傷などの組織損傷について基礎知識を学ぶ。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学 総論Ⅲ	柔道整復学のうち、とくに骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する治療法の知識を学ぶ。また、実際に骨折治療にあたるための基礎知識を得る。	3通	52	2	○		
○			柔道整復学 各論Ⅰ (2年次担当)	上肢の骨折について、それぞれの骨折の概念、特徴、基本的な鑑別方法を習得する。	2通	78	3	○		

(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復学各論Ⅰ (3年次配当)	さまざまな上肢の骨折について、転位から整復法を考察し、固定法については実技を交えながら学習する。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅱ (2年次配当)	下肢の骨折について、それぞれの骨折の概念、特徴、基本的な鑑別法を学び、加えて後療にあたるための知識を得る。	2通	78	3	○	△	
○			柔道整復学各論Ⅱ (3年次配当)	様々な下肢の骨折に対し、転位や特性を理解して徒手整復・固定の是非を判断し、具体的な整復・固定法を考え、実施する力を養う。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅲ (2年次配当)	主に四肢における脱臼、捻挫について、的確な診断と施術が行える知識と技術を習得する。	2通	78	3	○		
○			柔道整復学各論Ⅲ (3年次配当)	さまざまな脱臼、捻挫について、必要に応じて専門医に委たり、あるいは自らの確かな施術を行える知識と技術を習得する。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅳ	柔道整復に必要な単純X線像の読影力を身につけるとともに、CT、MRI、超音波の各検査についても、読影に必要な最低限の知識を身につける。	3後	52	2	○		
○			基礎柔道整復実技 (1年次配当)	柔道整復師に必要な基礎の固定法を修得し、臨床現場で軟部組織損傷の治療に際し行う包帯固定時の技術を身につける。	1通	60	2			○
○			基礎柔道整復実技 (3年次配当)	臨床現場で軟部組織損傷の治療の前に行う検査法の技術を習得するとともに、必要となる包帯法の技術を身につける。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅰ (2年次配当)	臨床で比較的高頻度にみられる骨折、脱臼について、それぞれの整復法および固定について実践的に学ぶ。	2通	60	2			○
○			柔道整復学実技Ⅰ (3年次配当)	臨床で高頻度にみられる骨折、脱臼について、整復、固定を行う際に、自らリスク管理を行い、患者への対応、助手への指示が適切にできる能力を身につける。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅱ (2年次配当)	頸部および上肢の外傷と整形外科的疾患に対して、鑑別し、各疾患の病態を理解し、適切な処置を行えるよう、的確な理学検査ができ、必要な検査を説明する力を養う。	2通	60	2			○



(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復学実技Ⅱ (3年次配当)	頸部および上肢の外傷と整形外科的疾患に対して、的確な理学検査を実施し、必要な検査を説明し、適切な治療法を選択できる力を養う。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅲ (2年次配当)	腰部および下肢の外傷と整形外科疾患に対し、鑑別をし、病態を理解し適切な処置を行えるよう、各種理学検査や検査法を必要に応じて行い、説明できる力を養う。	2通	60	2			○
○			柔道整復学実技Ⅲ (3年次配当)	腰部および下肢の外傷と整形外科的疾患に対して、的確な理学検査を実施し、必要な検査を説明し、適切な治療法を選択できる力を養う。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅳ	臨床現場で実際に用いられる固定法、後療法を習得する。固定材料の適切な選択、症例に合わせた後療法を選択できる力を養う。	3後	60	2			○
○			臨床実習 (2年次配当)	実際の骨折、脱臼などの症例の単純X写真を用い、それぞれの症例検討を行った上で、整復後の固定法をギプス、ソフトキャスト、テープなどを用いて実践する。	2後	45	1			○
○			臨床実習 (3年次配当)	柔道整復の現場で活用できる関節モビライゼーションやストレッチ、コアコンディショニング、アロママッサージ等の後療法について実践的に学ぶ。	3前	45	1			○
○			総合演習	医療人に求められる社会人マナーについてゼミ形式で学習する。また、医学を学び実践する者に必要な学習や課題への取り組み方を具体的に指導する。	1通	60	3		○	
○			総合実習	早期患者暴露と臨床実習の準備のため、附属クリニックでの見学実習を行う。事前に研修とレポート課題を課し、見学後には報告会を行い、職業意識を高める。	2前	30	1			○
○			卒業研究	論文作成を通じて、起こっている事象や情報を正確かつ客観的に捉え、取捨し、考察を行うことで、論理的思考力を養う。	3前	30	2		○	
合計					52科目	単位時間 ( 94 単位)				

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
森ノ宮医療学園 専門学校	昭和48年3月1日	安雲 和四郎	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4丁目1-8 (電話) 06-6976-6889			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 森ノ宮医療学園	昭和52年4月1日	清水 尚道	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4丁目1-8 (電話) 06-6976-6889			
目 的	森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科は、柔道整復師に必要な理論並びに技術の専門教育を行い、かつ医療人としての人格・教養をたかめ、もって社会の福祉と国民の健康の保持と増進に寄与することを目的としています。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	柔道整復学科 (昼間部選択コース)	3年(昼)	112単位	平成十五年文部科学省 告示第十四号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	86単位	5単位	0単位	3単位	18単位	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
270人の内数	88人	15人	22人	37人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 試験等を総合的に評価し、絶対評価にて100点満点中60点以上を合格とします。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■春 季：4月1日～4月7日 ■夏 季：8月1日～8月25日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：3月18日～3月31日 ■学 年 末：3月31日			卒業・ 進級条件	卒業条件は、定められた全ての単位を修得し、卒業試験に合格のうえ、授業料等、定められた学納金を完納していることと定めています。進級条件は、原則、当該学年の教育課程における全ての単位を修得することと定めています。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任と当該学生とによる面談を積極的に行っています。場合によっては、学生同意の上で保護者あるいは事務職員を交えることもあります。			課外活動	■課外活動の種類 柔道整復師関連学会にて研究発表を行ったり、文化祭当日に学校近隣の清掃活動等を行ったりしています。 ■サークル活動 (有・無)	

<b>主な就職先</b>	<b>■主な就職先、業界</b> 病院、クリニック、整骨院 <b>■就職率※<sup>1</sup></b> 91 % <b>■卒業者に占める就職者の割合※<sup>2</sup></b> 71 % (平成25年度卒業者に関する平成26年3月時点の情報)	<b>主な資格・検定</b>	柔道整復師国家資格
<b>中途退学の現状</b>	<b>■中途退学者</b> 2名 <b>■中退率</b> 2.3% 平成25年4月1日在学者 87名 (平成25年4月入学者を含む) 平成26年3月31日在学者 85名 (平成26年3月卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更 <b>■中退防止のための取組</b> 担任による積極的な面談に加えて、学業不振者に対して課外ゼミや個別指導等を随時行っています。兼任教員も参加している職員会議において、学生に関する情報を共有し、長期欠席者等への早期対応を図っています。		
<b>ホームページ</b>	URL : <a href="http://www.morinomiya.ac.jp/">http://www.morinomiya.ac.jp/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

柔道整復師養成施設においては、柔道整復師学校養成施設指定規則等により、教員としての条件が他の専門課程より厳しく設定されていますが、本校は開校以来、医療現場で活躍する臨床経験豊富な医療人による授業の必要性について強く認識しており、教員条件を有する臨床家に、兼任教員として、特に実際の医療現場で求められている技能・知識あるいは様々な症例・患者への対応等を踏まえた学生への実践的な教育をお願いしています。学期ごとに開催している職員会議には専任教員だけでなく、兼任教員にも出席していただき、授業内容や学生の状況等のご意見をいただいたうえで、学内で本校の教育方針との合致等の検討を行い、カリキュラムや学生指導に反映させています。以上のようなこれまでの状況に加えて、教育課程編成委員会の設置により、一層外部医療資格者との連携が行いやすくなったと考えています。今後も引き続き、多くの臨床家と連携を行い、実際の医療の現場が求める知識・技術・技能を把握した上で、より実践的な教育課程の編成ならびに教育内容の充実を目指していきたいと考えています。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年6月1日現在

名 前	所 属
川口 靖夫	公益社団法人大阪府柔道整復師会
根来 信也	公益社団法人兵庫県柔道整復師会
西村 信一	公益社団法人大阪府柔道整復師会
相江 大樹	葉山整骨院
安雲 和四郎	森ノ宮医療学園専門学校
森 優也	森ノ宮医療学園専門学校
葉山 直史	森ノ宮医療学園専門学校
山本 達也	森ノ宮医療学園専門学校
初瀬川 初雄	森ノ宮医療学園専門学校

### (開催日時)

第1回 平成26年8月8日(予定)

第2回 平成27年2月12日(予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

前述の通り、本校は開校以来、医療現場で活躍する臨床経験豊富な医療人による授業の必要性について強く認識しており、柔道整復師学校養成施設指定規則等に定められた教員条件を有する臨床家に、兼任教員として学生の指導をお願いしています。柔道整復師の養成については、卒業後に実際の医療現場で活躍できる人材を輩出することが重要であるため、これらの兼任教員には特に現場で求められる知識・技術の習得を目的として、実技・実習科目を担当していただいています。専任教員は基礎知識・基礎技術の教授、ならびに学生サポートに注力し、兼任教員に应用力を高める授業を依頼することで、医療現場のもとめる人材育成が可能となっており、その結果、多くの病院、整骨院、クリニックからの多くの求人件数に結びついています。

科目名	科目概要	連携企業等
救急法	突発的な怪我や容体が急変した急病人に対する適切な評価方法を学ぶ。また、根拠に裏づけられた処置を実践することで幅広く対処できる能力を身につける。	神戸ライフセービングクラブ
整復解剖学 (1年次担当)	解剖学(運動系)の基礎的知識を習得して、身体のメカニズムを理解するとともに、柔道整復師に必要な観察、触診、計測を的確に行う力を養う。	畿央大学
スポーツ整復学 (2年次担当)	さまざまなスポーツ外傷・障害について診断、鑑別をし、初期処置が適切にできる。	くさかクリニック 南谷クリニック みどりの風クリニック

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

森ノ宮医療学園研修規程に基づき、計画的に教員を企業等と連携した研修に参加させています。同規程の定め通り、法人本部経営管理室が、所属長と協議の上、各教員の専攻分野はもちろん、教員として必要なその他の分野の知識を考慮し研修計画を定めています。本校では教員が二以上の専攻分野に精通することを目標としていることから、研修計画もそのような方針に沿って策定されています。研修計画は法人本部長の承認を得た後、所属長を通じて該当教員に通知され、実際の研修への参加という流れになっています。研修後は経営管理室により研修結果の精査が行われ、次年度以降のより有効な研修の実施に向けた検証が行われます。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年6月1日現在

名前	所属
安雲 和四郎	森ノ宮医療学園専門学校
伊藤 久夫	大阪府鍼灸マッサージ師会
川口 靖夫	大阪府柔道整復師会
赤丸 敏行	
浜田 暁	森ノ宮医療学園校友会
上條 藤夫	
森 優也	森ノ宮医療学園専門学校
葉山 直史	森ノ宮医療学園専門学校

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.morinomiya.ac.jp/schoolguide/information.html#ContentWrapper>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL:<http://www.morinomiya.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復学科(昼間部選択コース) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			心理学	医療の基礎となる心のはたらきと患者心理について理解する。	1前	30	2	○		
○			臨床心理学	前期の総論を基礎とし、人生プロセスを理解した上で、人生の各時期における代表的なストレス症状の原因から治療を知る。	1後	30	2	○		
○			社会学Ⅰ	国の社会保障制度、医療保険制度を学び、加えて療養費払い制度を学び、柔道整復師の社会的立場と求められる役割を理解する。	1前	30	2	○		
○			生物学 (1年次配当)	医療従事者として生体を理解するために、身体の構成成分である生体分子および細胞が営む生命現象について学ぶ。	1後	30	2	○		
○			生物学 (2年次配当)	医療従事者として生体を理解するために、身体の構成成分である生体分子および細胞が営む生命現象について学ぶ。	2前	30	2	○		
○			英語Ⅰ	医療従事者に必要なコミュニケーション能力と、最低限必要な医学英語を身につける。	1前	30	2	○		
○			英語Ⅱ	医療従事者に必要な医学英語の知識を身につける。とくに人体各部の名称や、筋、骨、関節、神経系の英単語が理解できる。	1後	30	2	○		
○			解剖学Ⅰ	柔道整復師にとくに必要な解剖学(運動系)の基礎知識を習得して、身体のメカニズムを理解するとともに、施術の論理的理解を深める。	1通	84	3	○		
○			解剖学Ⅱ	人体を構成する器官の中でも、血管や内臓の構造・形態と機能を学び、加えて臨床との関係についても学習する。	1通	84	3	○		
○			生理学Ⅰ	健康や病気を理解する上で必要な、ヒトの身体がどのような営みを行い、生命を維持しているのかを学ぶ。	1通	84	3	○		
○			生理学Ⅱ	健康や病気を理解する上で必要な、ヒトの身体の営み(機能)を学ぶ。とりわけ柔道整復師に必要な神経、筋肉の基本的機能、神経系の機能等は詳しく学ぶ。	2通	84	3	○		

(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部選択コース) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			運動学	人体の骨格、筋、内臓などの身体の形態的特性や筋力的特性を理解し、その力学的な相互関係によって起こる姿勢や動作などの身体運動について学ぶ。	2 通	84	3	○		
○			病理学概論 I	細胞、組織、臓器などの形態の変化を観察することで、疾病の原因、経過、本態、ほかの疾病との鑑別、治療効果などについて詳しく学ぶ。	2 通	52	2	○		
○			外科学概論	現代医学の根幹をなす外科学の基本的知識を学ぶとともに、それを通じて医療現場で求められる優先順位をつける力や鑑別の重要性を理解する。	3 通	52	2	○		
○			整形外科学 (2年次配当)	運動器の治療を行う柔道整復師にとって必要な「運動器全般の知識」すなわち整形外科全般について学ぶ。	2 後	26	1	○		
○			整形外科学 (3年次配当)	運動器の治療を行う柔道整復師にとって必要な「運動器全般の知識」すなわち整形外科全般について学ぶ。	3 前	52	2	○		
○			衛生学・公衆衛生学	疾病の治療・予防に衛生面からアプローチして健康を維持・増進させるために必要な、食事や労働など、ヒトを取り巻く環境について学ぶ。	1 通	78	3	○		
○			一般臨床医学	解剖学、生理学、病理学の知識をふまえ、疾患に対する知識と理解を深め、症状と所見から鑑別診断ができる能力を身につける。	3 通	78	3	○		
○			リハビリテーション医学 (2年次配当)	リハビリテーションとは何かを学び、基本的な評価や訓練内容を説明、実践できるよう学習する。また理学療法に加え、作業療法、言語療法の内容を理解する。	2 後	26	1	○		
○			リハビリテーション医学 (3年次配当)	関節拘縮、筋萎縮、運動麻痺などに対するリハビリテーションとして、基本的な運動療法を適切に行うことが出来る知識と技術を養う。	3 前	26	1	○		
○			医学史	柔道整復師が医療人として知っておくべき現代医学の歴史的背景を把握した上で、固有の医療である柔道整復術の歴史的展開について理解する。	1 前	26	1	○		

(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部選択コース) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			関係法規	法の基本的概念とともに、柔道整復師に必要な法律知識を習得し、法的なものの考え方を身につけ、柔道整復師法を理解し、説明できる能力を身につける。	3 前	40	2	○		
○			柔道 (1年次担当)	礼を重んじる柔道の習得を通して医療人としての人格を養うとともに、正しい柔道の技術を身につける過程で心身を鍛練し、健康な心身を維持することに努める。	1 後	45	1			○
○			柔道 (2年次担当)	礼を重んじる柔道の習得を通して医療人としての人格を養うとともに、正しい柔道の技術を身につける過程で心身を鍛練し、健康な心身を維持することに努める。	2 通	90	2			○
○			柔道 (3年次担当)	礼を重んじる柔道の習得を通して医療人としての人格を養うとともに、正しい柔道の技術を身につける過程で心身を鍛練し、健康な心身を維持することに努める。	3 前	45	1			○
○			柔道整復学 総論Ⅰ (1年次担当)	柔道整復師の専門分野である柔道整復理論のうち、骨損傷総論について学習し、骨折治療にあたるための基礎知識を身につける。	1 前	52	2	○		
○			柔道整復学 総論Ⅰ (3年次担当)	主に上下肢のさまざまな骨折について学習したことを、あらためて骨損傷総論に照らして理解を深め、骨折治療にあたるための応用力を身につける。	3 後	26	1	○		
○			柔道整復学 総論Ⅱ (1年次担当)	柔道整復師の専門分野である柔道整復学のうち、脱臼・捻挫などの関節損傷ならびに筋損傷などの組織損傷について基礎知識を学ぶ。	1 通	78	3	○		
○			柔道整復学 総論Ⅱ (3年次担当)	さまざまな脱臼・捻挫などの関節損傷ならびに筋損傷などを学習したことを、あらためて組織損傷総論に照らし、臨床現場で応用できるよう知識を深める。	3 後	26	1	○		
○			柔道整復学 総論Ⅲ	柔道整復学のうち、とくに骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する治療法の知識を学ぶ。また、実際に骨折治療にあたるための基礎知識を得る。	3 通	52	2	○		
○			柔道整復学 各論Ⅰ (2年次担当)	上肢の骨折について、それぞれの骨折の概念、特徴、基本的な鑑別方法を習得する。	2 通	78	3	○		



(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部選択コース) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復学各論Ⅰ (3年次配当)	さまざまな上肢の骨折について、転位から整復法を考察し、固定法については実技を交えながら学習する。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅱ (2年次配当)	下肢の骨折について、それぞれの骨折の概念、特徴、基本的な鑑別法を学び、加えて後療にあたるための知識を得る。	2通	78	3	○		
○			柔道整復学各論Ⅱ (3年次配当)	様々な下肢の骨折に対し、転位や特性を理解して徒手整復・固定の是非を判断し、具体的な整復・固定法を考え、実施する力を養う。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅲ (2年次配当)	主に四肢における脱臼、捻挫について、的確な診断と施術が行える知識と技術を習得する。	2通	78	3	○		
○			柔道整復学各論Ⅲ (3年次配当)	さまざまな脱臼、捻挫について、必要に応じて専門医に委ねたり、あるいは自らの確かな施術を行える知識と技術を習得する。	3後	26	1	○		
○			柔道整復学各論Ⅳ	柔道整復に必要な単純X線像の読影力を身につけるとともに、CT、MRI、超音波の各検査についても、読影に必要な最低限の知識を身につける。	3後	52	2	○		
○			基礎柔道整復実技 (1年次配当)	柔道整復師に必要な基礎の固定法を修得し、臨床現場で軟部組織損傷の治療に際し行う包帯固定時の技術力を身につける。	1通	60	2			○
○			基礎柔道整復実技 (3年次配当)	臨床現場で軟部組織損傷の治療の前に行う検査法の技術を習得するとともに、必要となる包帯法の技術を身につける。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅰ (2年次配当)	臨床で比較的高頻度にみられる骨折、脱臼について、それぞれの整復法および固定について実践的に学ぶ。併せて基本的な触察法も学びながら後療法の基本を習得する。	2通	60	2			○
○			柔道整復学実技Ⅰ (3年次配当)	臨床で高頻度に見られる骨折、脱臼について、整復、固定を行う際に、自らリスク管理を行い、患者への対応、助手への指示が適切にできる能力を身につける。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅱ (2年次配当)	頸部および上肢の外傷と整形外科的疾患に対して、鑑別し、各疾患の病態を理解し、適切な処置を行えるよう、的確な理学検査ができ、必要な検査を説明する力を養う。	2通	60	2			○

(医療専門課程 柔道整復学科 (昼間部選択コース) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			柔道整復学実技Ⅱ (3年次配当)	頸部および上肢の外傷と整形外科的疾患に対して、的確な理学検査を実施し、必要な検査を説明し、適切な治療法を選択できる力を養う。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅲ (2年次配当)	腰部および下肢の外傷と整形外科疾患に対し、鑑別をし、病態を理解し適切な処置を行えるよう、各種理学検査や検査法を必要に応じて行い、説明できる力を養う。	2通	60	2			○
○			柔道整復学実技Ⅲ (3年次配当)	腰部および下肢の外傷と整形外科的疾患に対して、的確な理学検査を実施し、必要な検査を説明し、適切な治療法を選択できる力を養う。	3前	30	1			○
○			柔道整復学実技Ⅳ	臨床現場で実際に用いられる固定法、後療法を習得する。固定材料の適切な選択、症例に合わせた後療法を選択できる力を養う。	3前	60	2			○
○			臨床実習 (2年次配当)	実際の骨折、脱臼などの症例の単純X写真を用い、それぞれの症例検討を行った上で、整復後の固定法をギプス、ソフトキャスト、テープなどを用いて実践する。	2後	45	1			○
○			臨床実習 (3年次配当)	柔道整復師の求められる各種評価やストレッチ、コアコンディショニング等に加え、医療従事者に必要な CPR について実践的に学ぶ。	3前	45	1			○
○			病理学概論Ⅱ	細胞、組織、臓器などの形態の変化を観察することで、疾病の原因、経過、本態、ほかの疾病との鑑別、治療効果などについて詳しく学ぶ。	3前	26	1	○		
○			外科学総論	機械的損傷や熱傷などの外科的処置や、消毒・滅菌、輸液・輸血、ショックなど、外科学の基本的かつ重要な知識を学ぶ。	3前	26	1	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションとは何かを学び、基本的な評価や訓練内容を説明、実践できるよう学習する。また理学療法に加え、作業療法、言語療法の内容を理解する。	2前	26	1	○		
○			保健体育	国民の健康増進・維持に貢献するために必要な運動生理の知識や運動処方の方考え方、運動処方の実際を学ぶ。	1後	40	2	○		

(医療専門課程 柔道整復学科 (屋間部選択コース) ) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			整復力学	力学の基本原理を学び、身体各部に働く力とその力学的作用を理解し、外傷やスポーツ障害への対応や柔道整復の実践に役立てる。	1 通	78	3	○		
○			整復解剖学 (1年次担当)	解剖学(運動系)の基礎的知識を習得して、身体のメカニズムを理解するとともに、柔道整復師に必要な観察、触診、計測を的確に行う力を養う。	1 後	52	2	○	△	
○			整復解剖学 (2年次担当)	解剖学(運動系)の基礎的知識を習得して、身体のメカニズムを理解するとともに、柔道整復師に必要な観察、触診、計測を的確に行う力を養う。	2 前	26	1	○	△	
○			救急法	突発的な怪我や容体が急変した急病人に対する適切な評価方法を学ぶ。また、根拠に裏づけられた処置を実践することで幅広く対処できる能力を身につける。	2 通	52	2	○	△	
○			スポーツ整復学 (1年次担当)	スポーツ外傷・障害について機能解剖学、局所解剖学を交えながら学習し、診断、鑑別が出来る能力を養う。	1 後	26	1	○		
○			スポーツ整復学 (2年次担当)	さまざまなスポーツ外傷・障害について診断、鑑別をし、初期処置が適切にできる。	2 前	26	1	○	△	
○			スポーツ整復学 (3年次担当)	スポーツ外傷・障害において、スポーツ復帰までの治療計画が組み立てられる。	3 前	26	1	○	△	
○			総合演習	医療人に求められる社会人マナーについてゼミ形式で学習する。また、医学を学び実践する者に必要な学習や課題への取り組み方を具体的に指導する。	1 通	60	3		○	
○			総合実習	早期患者暴露と臨床実習の準備のため、整形外科での見学実習を行う。事前に研修とレポート課題を課し、見学後には報告会を行い、職業意識を高める。	2 前	30	1	○		
○			卒業研究	論文作成を通じて、起こっている事象や情報を正確かつ客観的に捉え、取捨し、考察を行うことで、論理的思考力を養う。	3 前	30	2		○	
合計					52 科目	単位時間 ( 112 単位)				